

彩の国さいたま芸術劇場アーツ・コミュニケーション・シリーズ

第5回

## talk・talk・talk

RYOKO MORIYAMA

YUKIO NINAGAWA

今、気になるアーティストをお迎えし、公開で対談をする彩の国さいたま芸術劇場アーツ・コミュニケーション・シリーズ「talk・talk・talk」第5回は、森山良子さんが登場。対する蜷川幸雄は実は以前から森山さんの「ファン」。それだけにいつもの舌鋒の鋭さは影を潜め、森山さんを「山の手のお嬢さん」と見る蜷川は、下町の（本当は純情でシャイな）露悪的青年と言ったところ。おまけに予期せぬ歌のプレゼントまであり、満員の観客で埋めつくされた彩の国さいたま芸術劇場 大ホールに幸せな時間が流れた。



森山良子

■ 歌手 森山良子

1967年「この広い野原いっぱい」でデビュー。その後、ミリオンセラー「禁じられた恋をはじめ」『涙そうそう』、『さとうきび畑』など、数々のヒット曲を生み出す。透明感のある歌声と歌唱力から、名実ともに日本のトップシンガーに。国内にとどまらず海外でもコンサート活動を続ける。長野冬季オリンピックや愛・地球博の開会式ではテーマソングを披露し、世界中に放映された。2006年第48回日本レコード大賞で「涙そうそう」が特別賞を受賞。11月スタートの毎週木曜フジテレビ系ドラマ『拝啓、父上様』の音楽を担当。3月文化庁より芸術分野で優れた活動をした人に贈られる2006年度の芸術選奨 文部科学大臣賞を受賞。「森山良子コンサートツアー2007～2008」で全国ツアー中。

## 山の手のお嬢さん VS. 下町の露悪的青年

**蜷川 (以下N)** 「talk・talk・talk」シリーズ、第5回のゲストは森山良子さんです。僕が「次回の対談の相手を森山良子さんにしてくれない」と言ったら、狼がリスを食べるように思うのか、「ええ?」とみんなが驚くわけです。でも僕は前からファンでしたし、僕が演出した『近松心中物語』を新しくしようと思った時も歌を唄って頂きました。それよりも具体的に浮かんだ理由は、先日、新宿の丸井の裏の路地で森山さんとすれ違ったんですが、その時歌手の森山良子です」とおっしゃったんです。歌手と言わなくても、わかりますよと思いましたが、そのデリケートさとなんとなく身を引いている美しさに負けて、是非お会いしているいろいろなお話を聞こうという勇気が沸きました。

森山さんどうぞ。(拍手) あの時のこと、覚えていらっしゃいますか。

**森山 (以下M)** 覚えております。あの辺りによく買い物に行きます。蜷川さんとお会した時は急ぎ足で、「わあ! いけない。こんな所を見られてしまった」という感じでした。

**N** 森山さんの番組（『森山良子のハート・オブ・ポップス』）がTBSラジオで11時頃から始まるのですよね。ここ彩の国さいたま劇場に通ってくる時に車の中で聞いていますが、心が和んで劇場に入ることが出来ます。そのラジオ番組でいろいろなお話をしていましたが、矢野顕子さんと子供の歌を唄っているのを番組で聴いて「いいなあ」と思っていました。皆さま聴いたことがありますか。(拍手)

**M** ありがとうございます。ほとんど実にならないことばかりをもう20年しゃべっていますが、いろいろな励ましのお便りを頂きます。でも一度「もうちょっと、社会的な実のあることをしゃべったらどうか」というお便りを頂きました。「もし社会的な実のある話が出来たら、歌など唄ってないわい」と思いました。(笑い)

**N** 実際の森山さんを目の当たりにすると、他の媒介を通じて知る森山さんと違って、生身の何かを感じてライブはいいですね。(拍手)

そういう話を聞くと、森山さんは山の手のお嬢さんだよな。僕は埼玉県出身だし、高校も西日暮里の下町でした。だから言葉は汚いし、山の手コンプレックスがあるから露悪的になっていきます。

**M** 私にはちょっとそういう感じがわかりません。全然お嬢さんではないですし、たまたま生まれ育った所が渋谷だったというだけの話です。ですから下町とか山の手とか自分では考えたことはないのです。大きくなってから下町の人、「山の手が」と言うので、「ああ、そういうふうと思うの

かなあ」、私は地域の違いだけとっていました。

**N** 失恋したことのない人は、振られた人の気持ちがわからないのと同じ感じですね。振られた経験がなく、伸び伸びと育った人はいいですね。

**M** それでも人生の中にはいろいろな事がございますよ。

**N** あるのですか。

**M** ないみたいですか。

## 本当はコンプレックスだった高く美しい歌声

**N** ええ。では少し真面目に。

森山さんの声は美しい声ですね。僕らの世代だと、外国のジョーン・バエズ、ボブ・ディランを聞いたりした初めの頃の世代だと思いますが、美しい声であるということに対して劣等感を持つということはないのですか。というのは、ボブ・ディランだと、本当は良い声なのだけれどわざと悪い声にしているのかなあと思うのですが、森山さんはそういうことはないのでしょうか。

**M** 子供の頃からすごかったです。非常～にそのコンプレックスは大きいです。デビューする時とにかくキーを下げたくて、何度も何度も一曲ごとに闘ってきましたが、結局キーを上げた方が聞きやすいので、全部のキーを一番高い所に合わせたわけです。

高い声が森山良子の声としてファンの間に定着しているのですが、「きれいな声ですね」と言われると、「きれいな他には何かないのかなあ」と思います。きれいな声は自分にはとても大事ですが、それだけではなく、もっと深い思いのある事が自分の中でも表現したいし、自分のやりたかったことも違う所にあつたので、今でもある意味では、きれいな声だけという印象だけではなく、深く低い声もどんどん出して使っていきたいと思っています。

**N** 直接関係ないですが、歌舞伎役者の女形である坂東玉三郎さんの舞台を観て楽屋に行くと、「玉さん、きれいだったよ」と言ったら、「うれしいけれど、いつもみんなにきれいと言われるから、もっと違うことを言って」と言われました。

**M** 今度から私もそう言おうかしら。ただ反面、きれいな声が自分の一番の特技だとしたら、他の所をもっと深く掘って、そこだけはキープしていかなければいけないという、責任感のようなものはすごいです。

**N** 若い時から少しずつ年を重ねてくると、音は下がっていくものですか。

**M** 人によると思います。どんどん下がっていくのが普通だと言われてい



蜷川幸雄

■ (財)埼玉芸術文化振興財団芸術監督・演出家 蜷川幸雄

埼玉県川口市出身。シェイクスピアはもとより、ギリシャ悲劇から日本の古典・現代劇まで幅広く手がけ、数々の名舞台を世界に送り出している。昨年4月には「さいたまゴールド・シアター」の活動を開始。6月には、イギリスでのRSC主催ザ・コンプリートワークスに日本で唯一招待され『タイタス・アンドロニカス』を上演し、絶賛を浴びた。まさに世界を舞台に疾走し続ける演出家。2006年、第5回朝日舞台芸術賞特別大賞、第13回読売演劇大賞・大賞、最優秀演出家賞受賞。